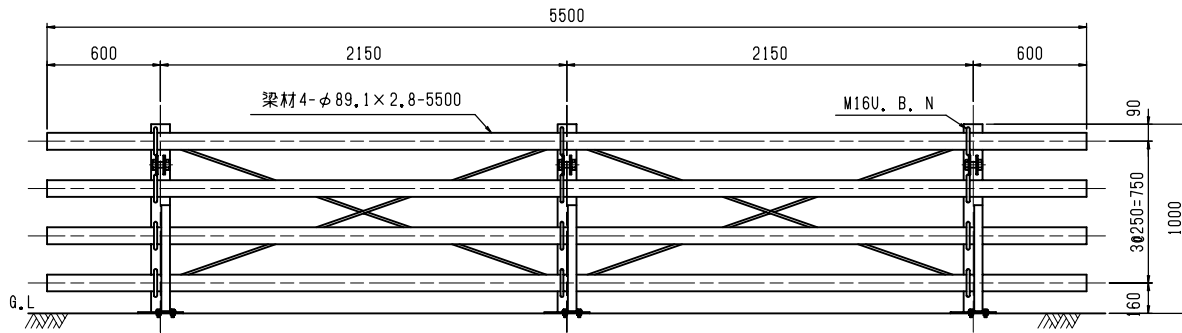


6. 雪崩予防柵

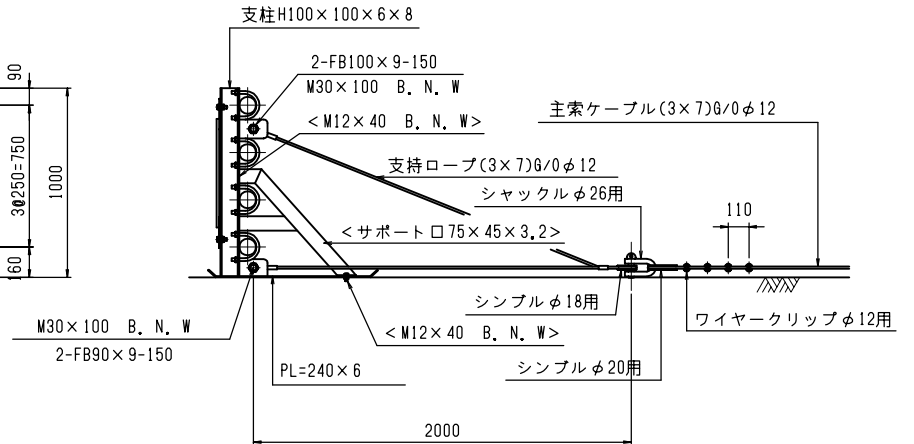
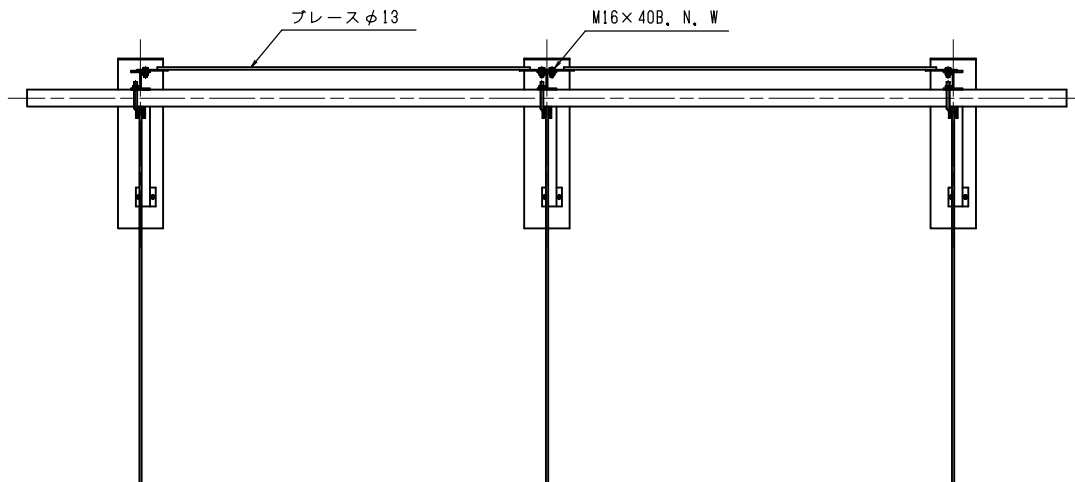
共通	図面記号	雪 - W = 5.5m · H = 1.0m	H23
	名称	雪崩予防柵 (柵幅5.5m, 柵高1.0m)	

単位 : mm

組立図



平面図



* < > : 参考

サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

質量表 (参考)

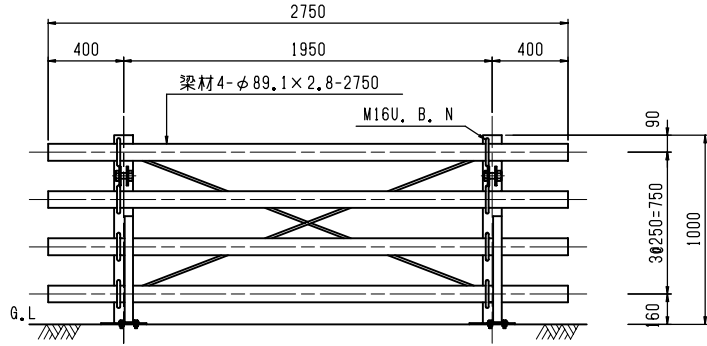
柵部	293.6kg
付属品	7.92kg
計	301.52kg
メインワイヤロープ φ12(3×7)φ12	0.5kg/m

部品の表面処理は、JIS H 8641(熔融亜鉛メッキ)による。

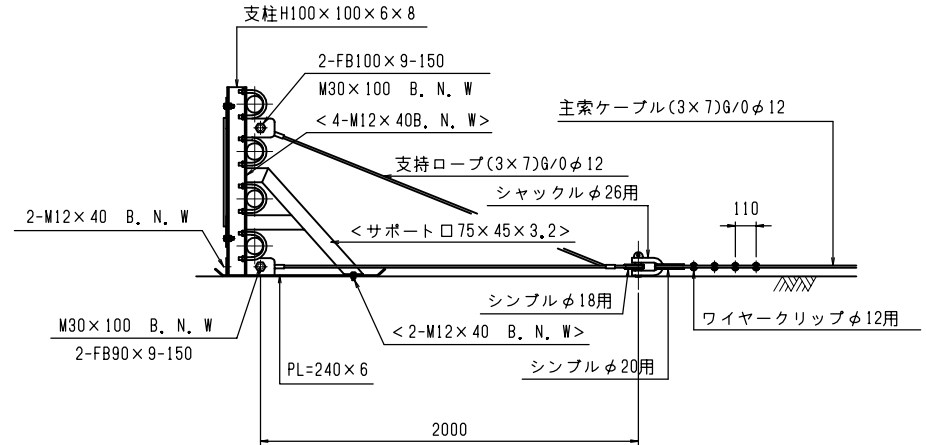
共通	図面記号	雪-W=2.75m・H=1.0m	H23
	名称	雪崩予防柵 (柵幅2.75m, 柵高1.0m)	

単位: mm

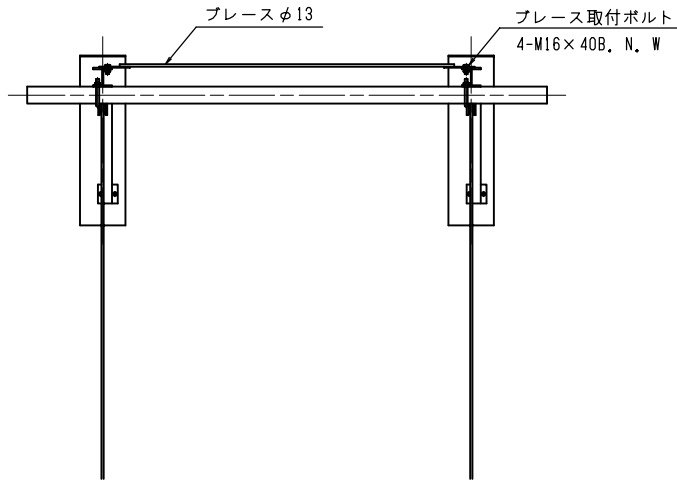
組立図



側面図



平面図



* < > : 参考

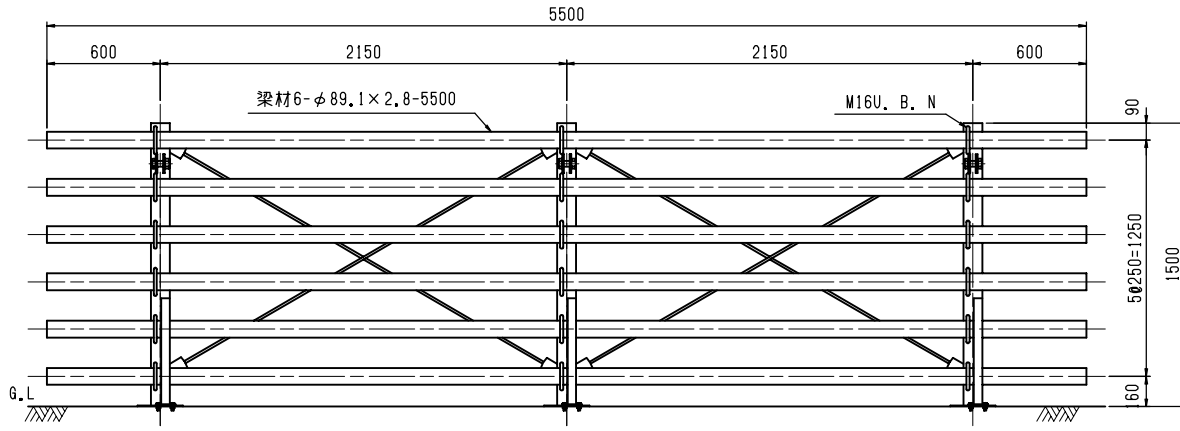
サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

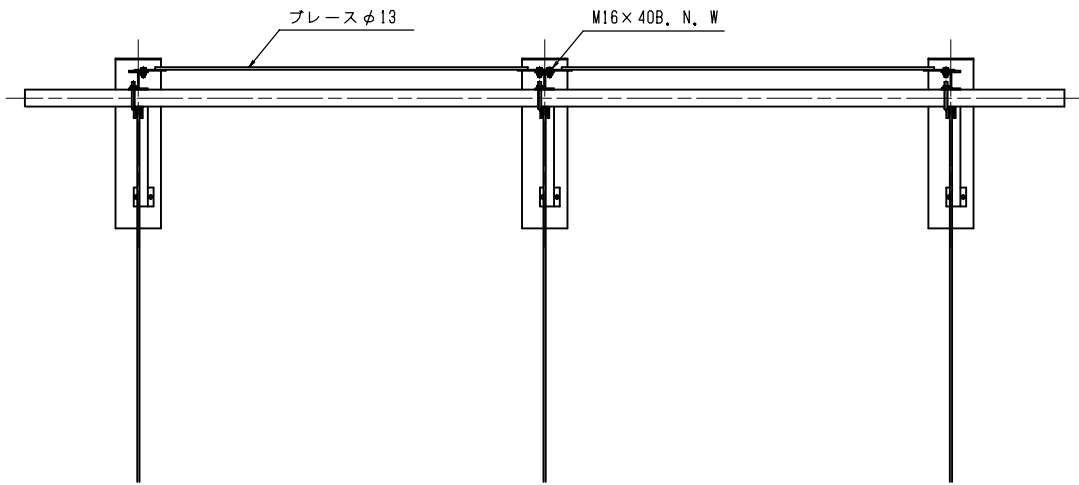
共通	図面記号	雪-W=5.5m, H=1.5m	H23
	名称	雪崩予防柵 (柵幅5.5m, 柵高1.5m)	

単位: mm

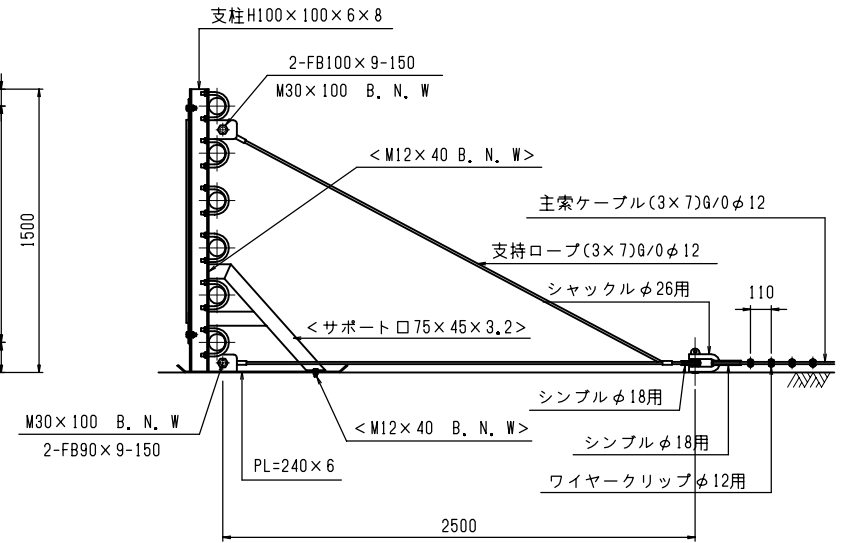
組立図



平面図



側面図



* < > : 参考

サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

質量表 (参考)

柵部	389.03kg
付属品	7.92kg
計	396.95kg

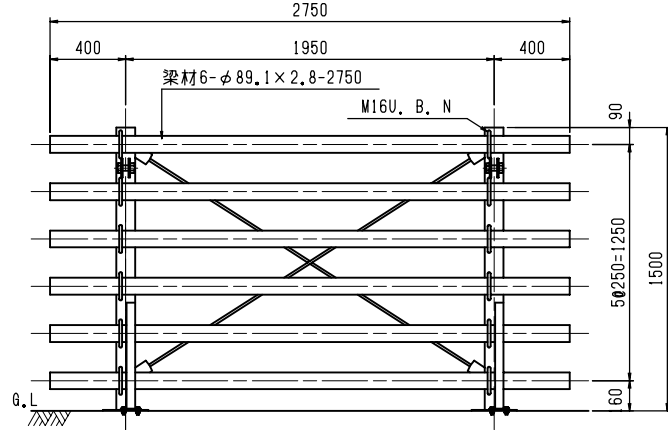
メインワイヤロープ φ12(3×7)6/0 0.5kg/m

部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

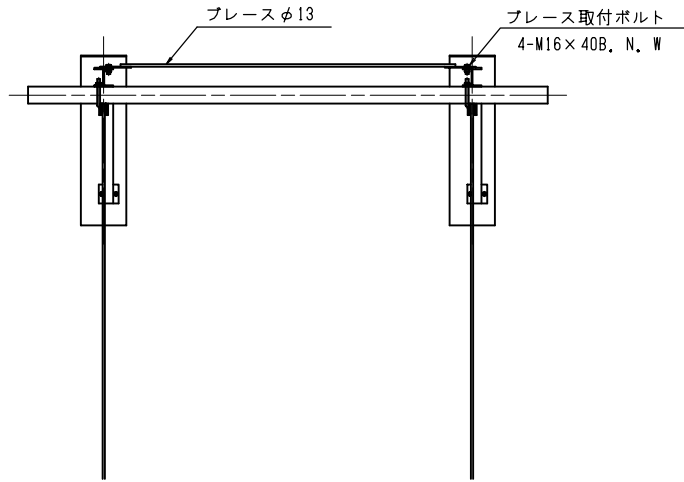
共通	図面記号	雪 - W=2.75m, H=1.5m	H23
	名称	雪崩予防柵 (柵幅2.75m, 柵高1.5m)	

単位: mm

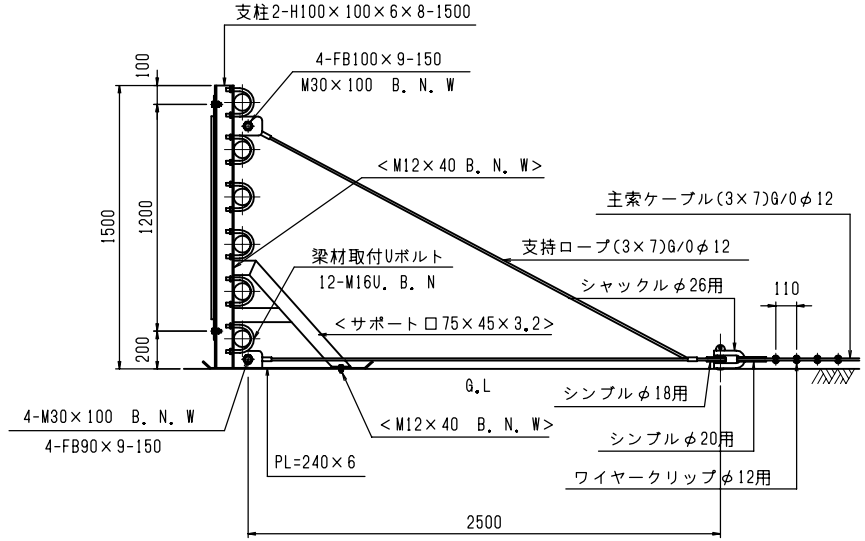
組立図



平面図



側面図



* < > : 参考

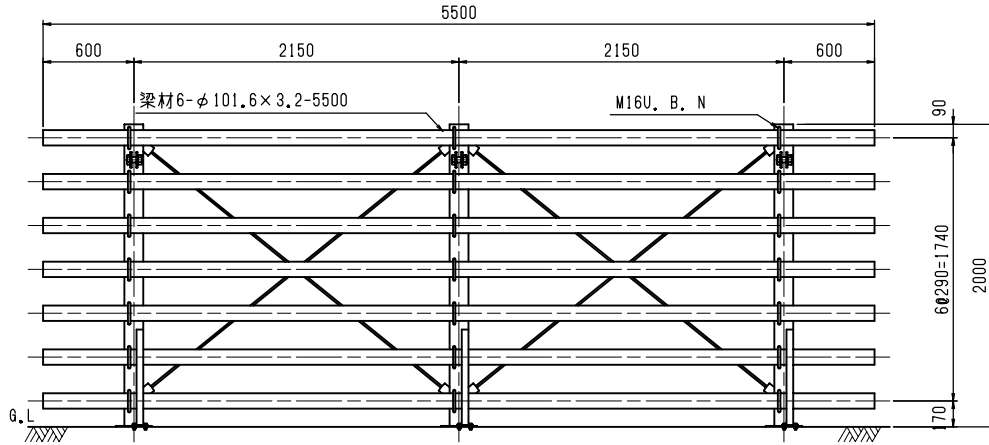
サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

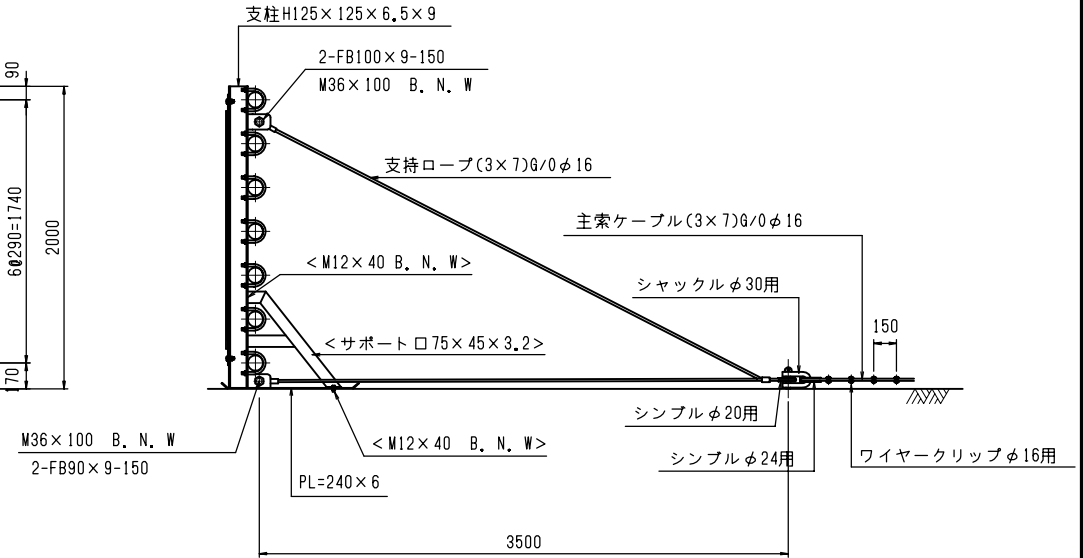
共通	図面記号	雪-W=5.5m, H=2.0m	H23
	名称	雪崩予防柵 (柵幅5.5m, 柵高2.0m)	

単位: mm

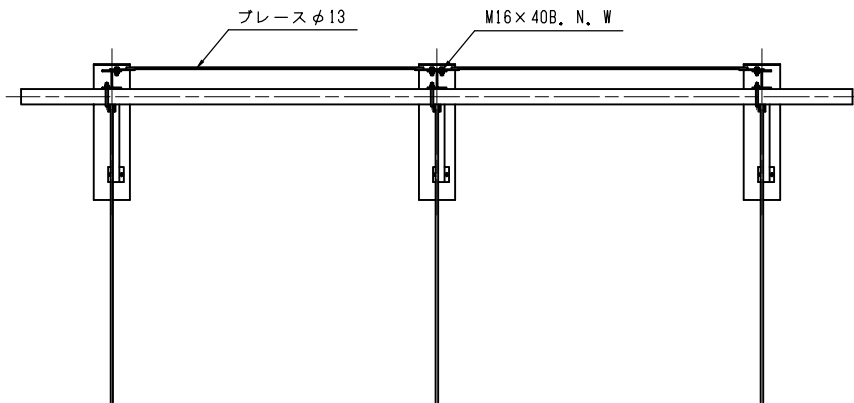
組立図



側面図



平面図



※ < > : 参考

サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

質量表 (参考)

柵部	589.34kg
付属品	14.04kg
計	603.38kg

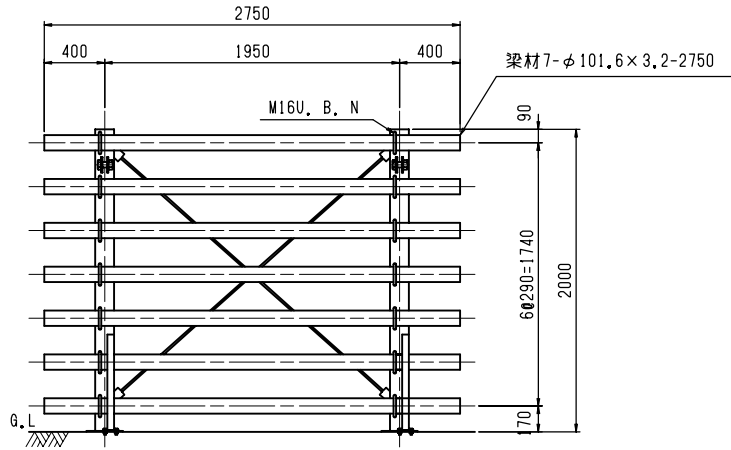
メインワイヤロープφ16(3×7)φ16 0.9kg/m

部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

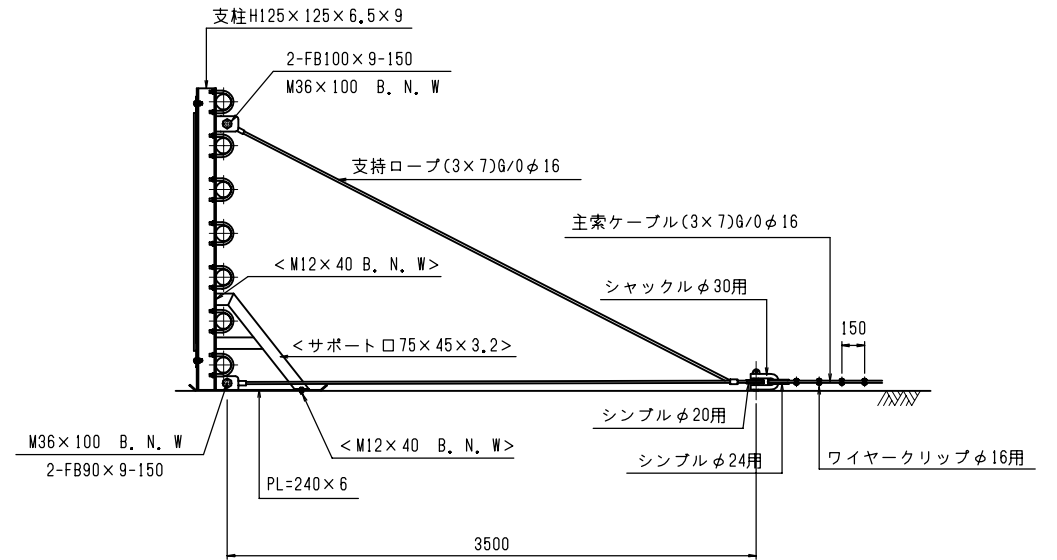
共通	図面記号	雪-W=2.75, H=2.0m	H23
	名称	雪崩予防柵 (柵幅2.75m, 柵高2.0m)	

単位: mm

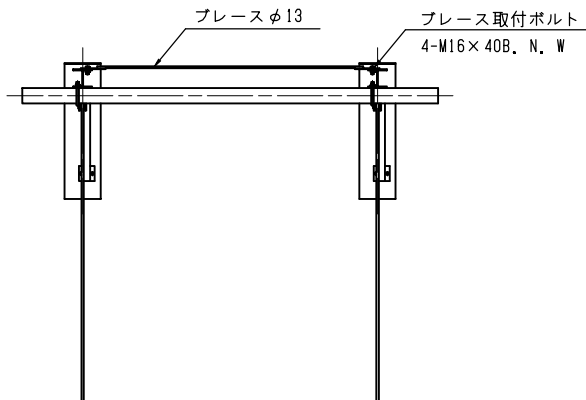
組立図



側面図



平面図



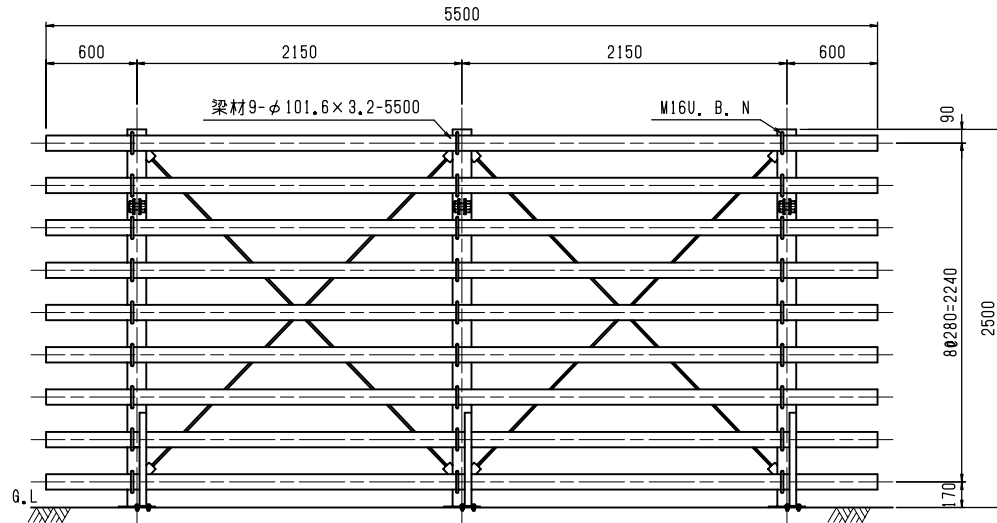
※ < > : 参考

サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

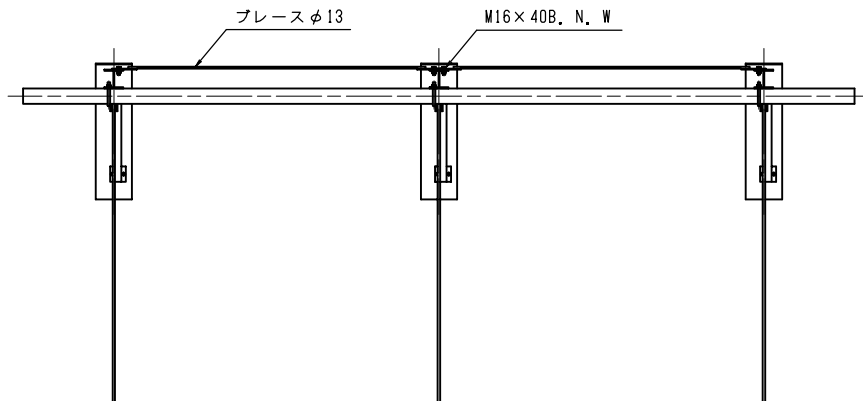
部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

共通	図面記号	雪 - W=5.5m, H=2.5m
	名称	雪崩予防柵 (柵幅5.5m, 柵高2.5m)

組立図

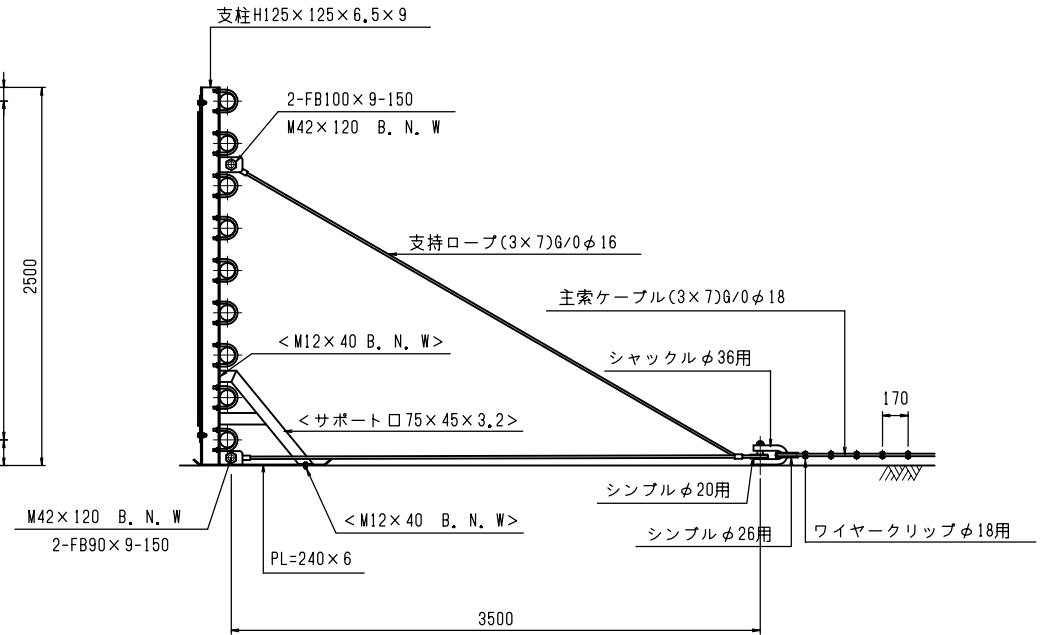


平面図



側面図

単位: mm



* < > : 参考

サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

質量表 (参考)

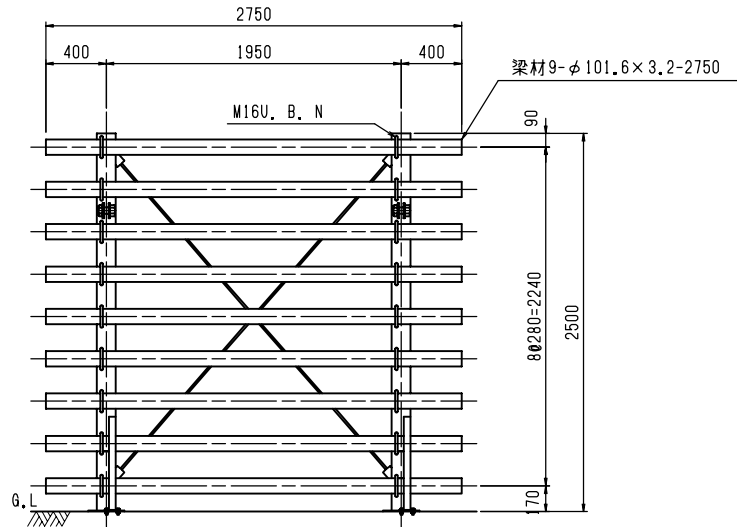
柵部	737.66kg
付属品	15.78kg
計	753.44kg

メインワイヤロープφ18(3×7)G/0 1.1kg/m

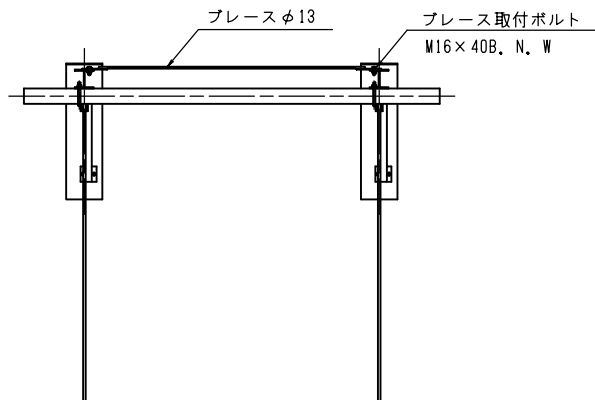
部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

共通	図面記号	雪-W=2.75m, H=2.5m
	名称	雪崩予防柵 (柵幅2.75m, 柵高2.5m)

組立図

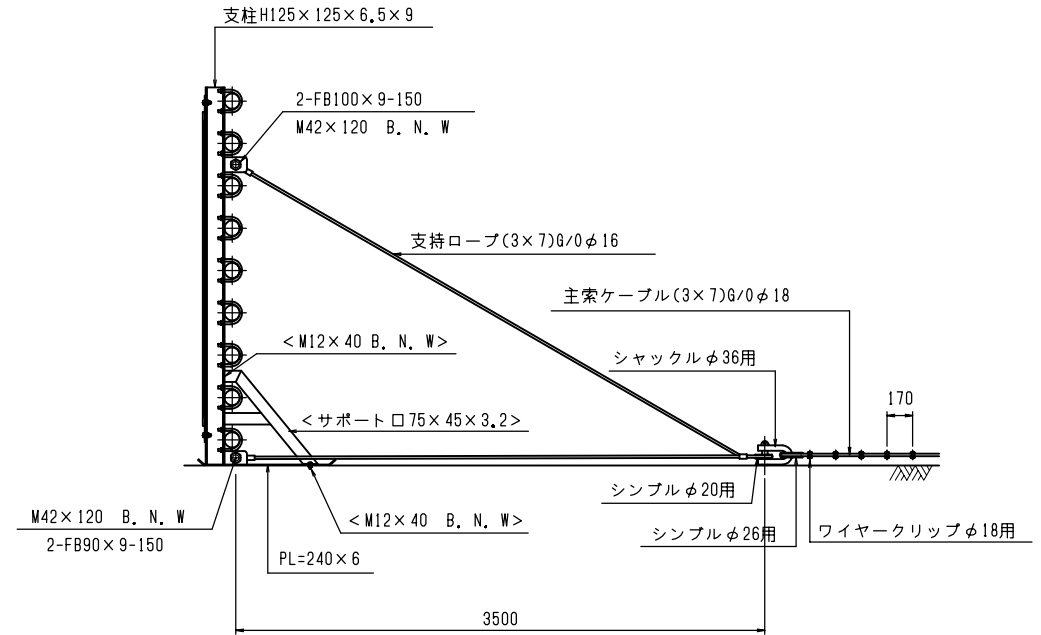


平面図



側面図

単位: mm



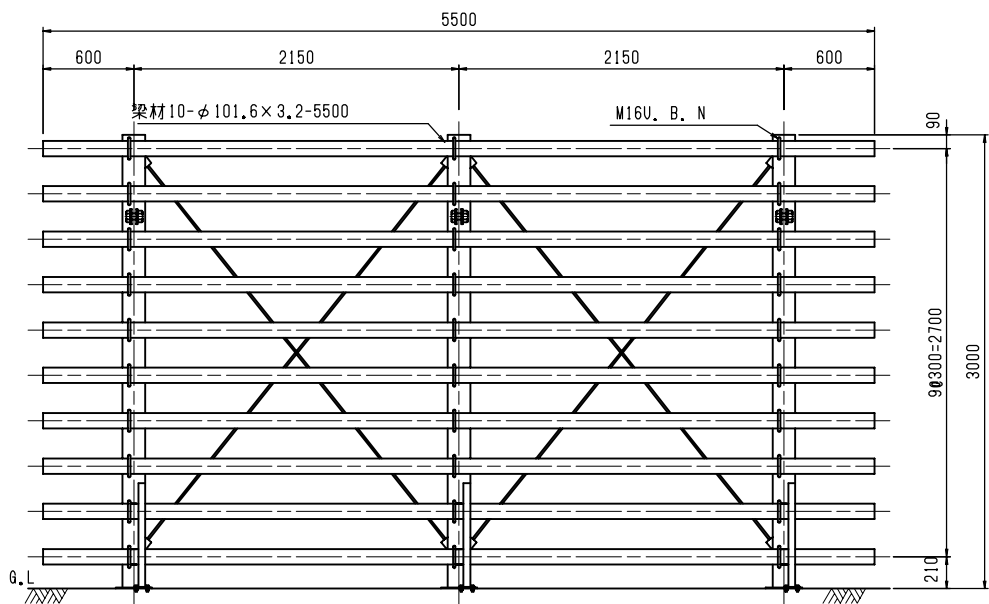
* < > : 参考

サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

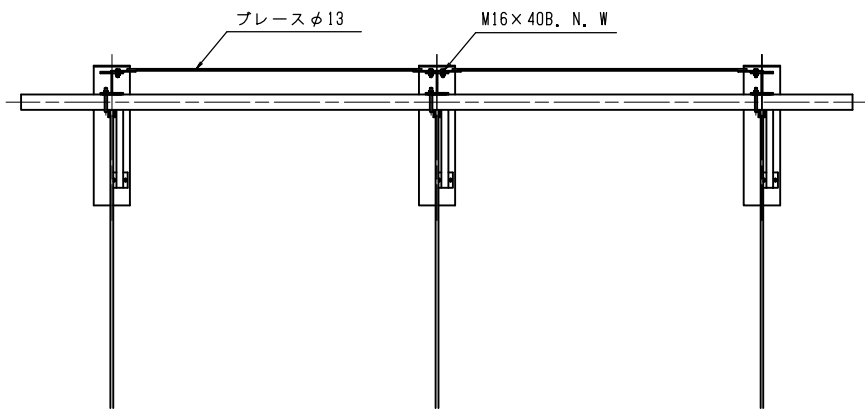
部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

共通	図面記号	雪 - W=5.5m, H=3.0m
	名称	雪崩予防柵 (柵幅5.5m, 柵高3.0m)

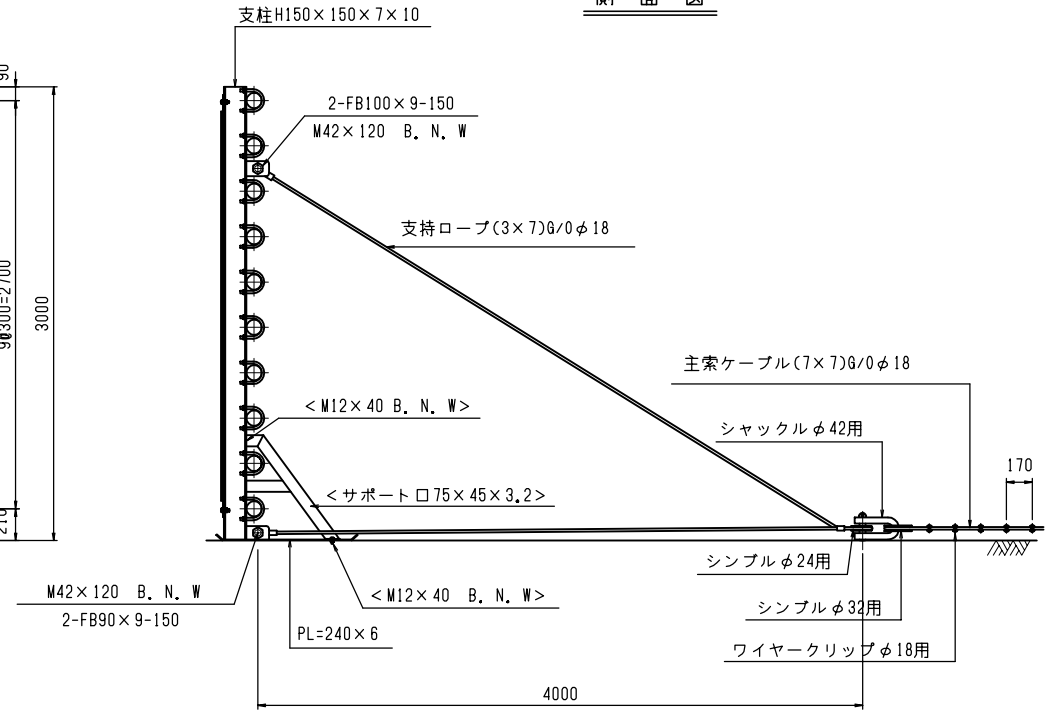
組立図



平面図



側面図



単位: mm

* < > : 参考

サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

質量表 (参考)

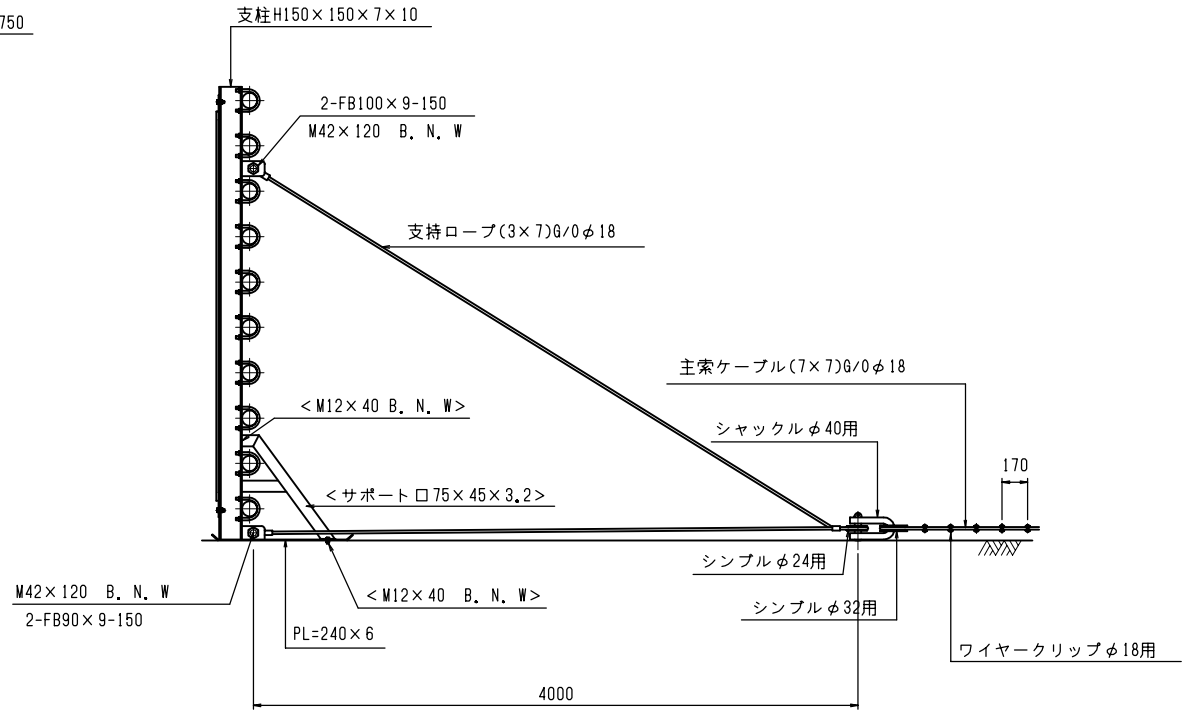
柵部	910.92kg
付属品	15.78kg
計	926.70kg
メインワイヤロープφ18(7×7)φ18 1.31kg/m	

部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

共通	図面記号	雪-W=2.75m, H=3.0m
	名称	雪崩予防柵 (柵幅2.75m, 柵高3.0m)

側面図

単位: mm

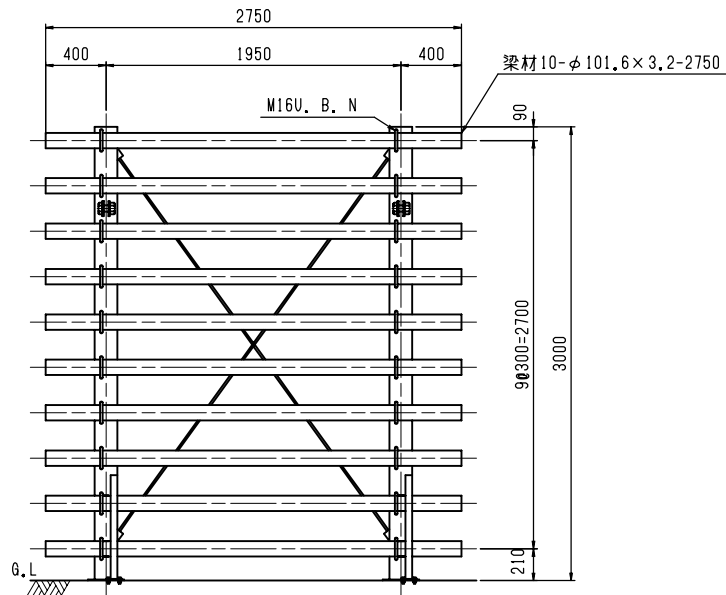


※ < > : 参考

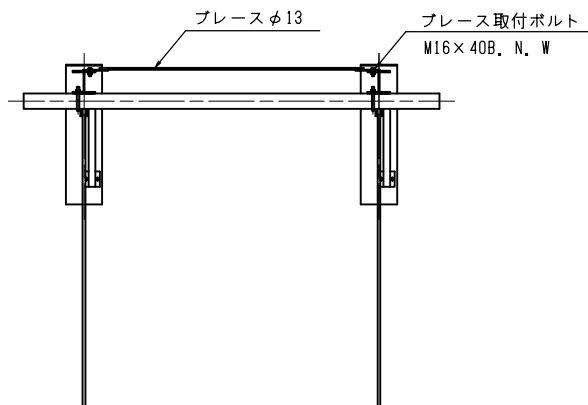
サポート部材は参考標記としているが、柵設置時および維持管理の際に、本体構造を保持するために必要な部材である。現地条件等を勘案して、必要なサポート材を使用すること。

部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

組立図



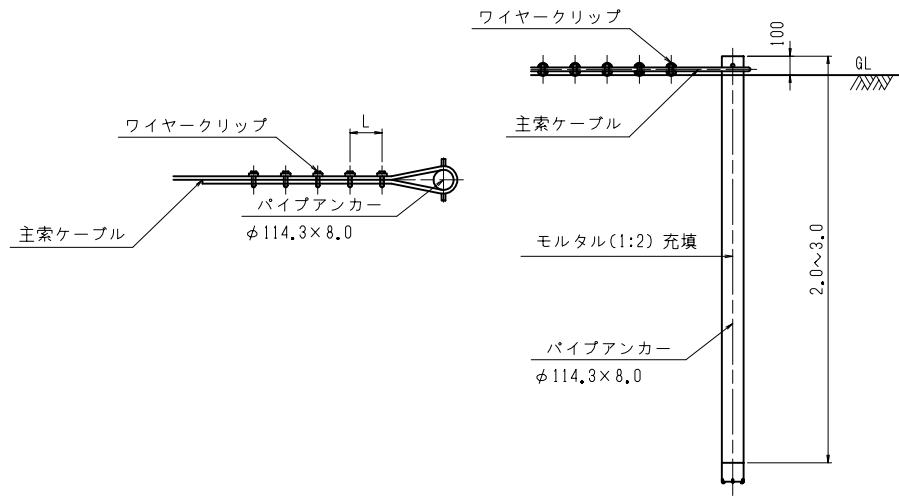
平面図



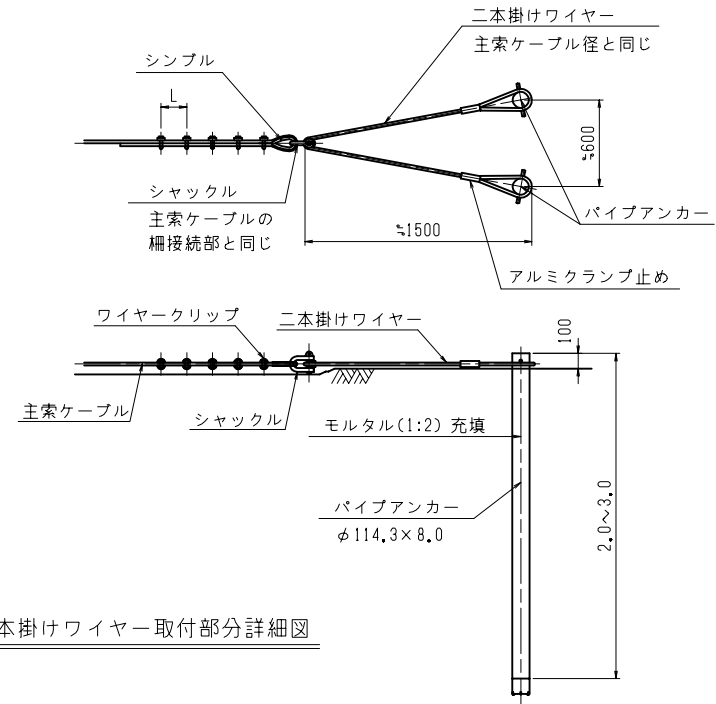
共通	図面記号	雪-パイプアンカー	H21
	名称	雪崩予防柵パイプアンカー、二本掛けワイヤー	

単位：mm

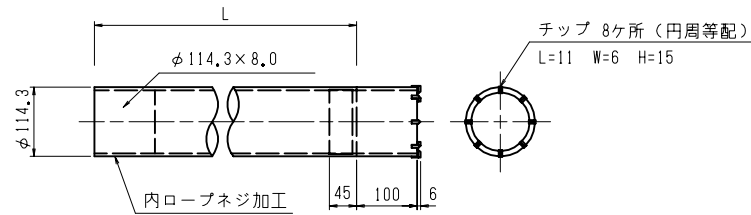
一本掛けワイヤー



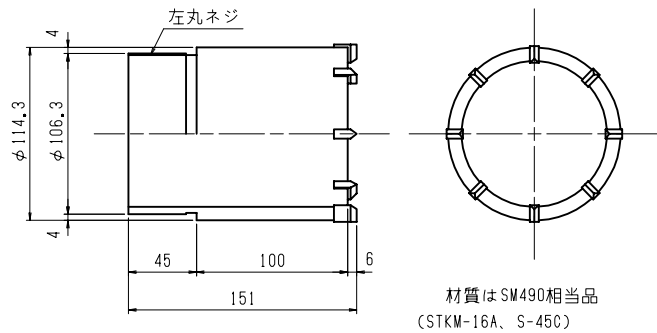
二本掛けワイヤー



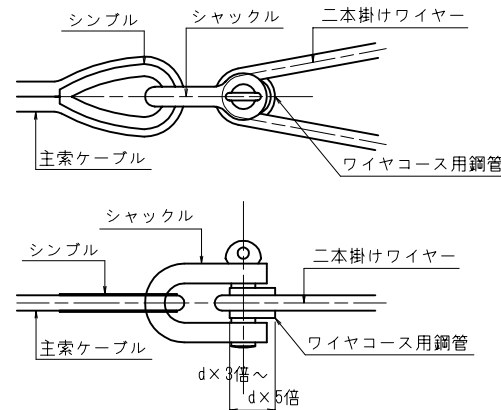
パイプアンカー



先端ビット



主索ケーブルと二本掛けワイヤー取付部分詳細図



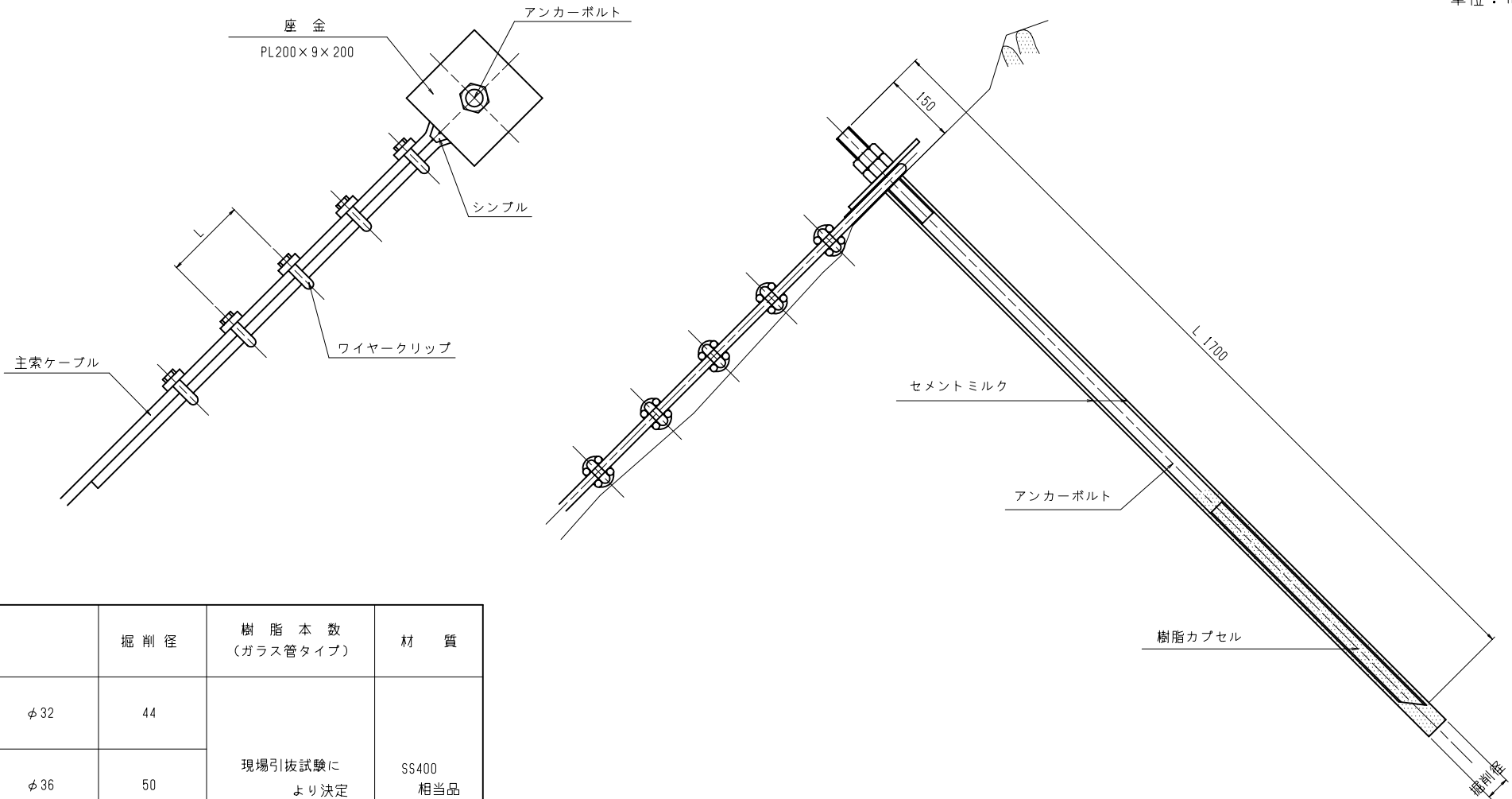
(φ89.1×2.8-40を使用) 柵高1.0m~2.0mの場合

(φ89.1×2.8-50を使用) 柵高2.5m~3.0mの場合

部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。
ただし、パイプアンカー本体はこれによらない。

共 通	図面記号	雪 - 樹脂アンカー
	名 称	雪崩予防柵樹脂アンカー

単位：mm



	掘削径	樹脂本数 (ガラス管タイプ)	材 質
φ32	44	現場引抜試験に より決定	SS400 相当品
φ36	50		
φ42	55		

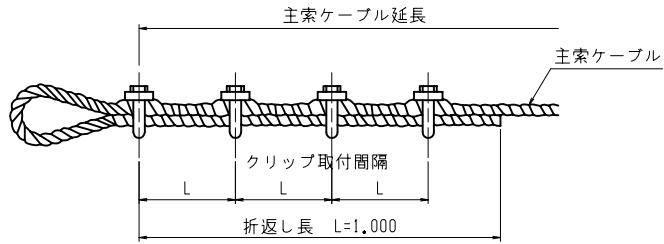
注) アンカーボルト径は設計計算により決定する。
アンカーボルトは、丸鋼またはネジ型とする。

部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。

共 通	図面記号	雪 - 共通事項
	名 称	雪崩予防柵施工図

ワイヤークリップの取付間隔、使用個数及び折返し長

単位：mm



(1)取付間隔

ロープ径	よりのピッチ	取付間隔	誤 差
12	114	110	±20
16	152	150	
18	171	170	

クリップの取付間隔は、隣接するクリップの中心間距離がロープのよりピッチに合致させること。

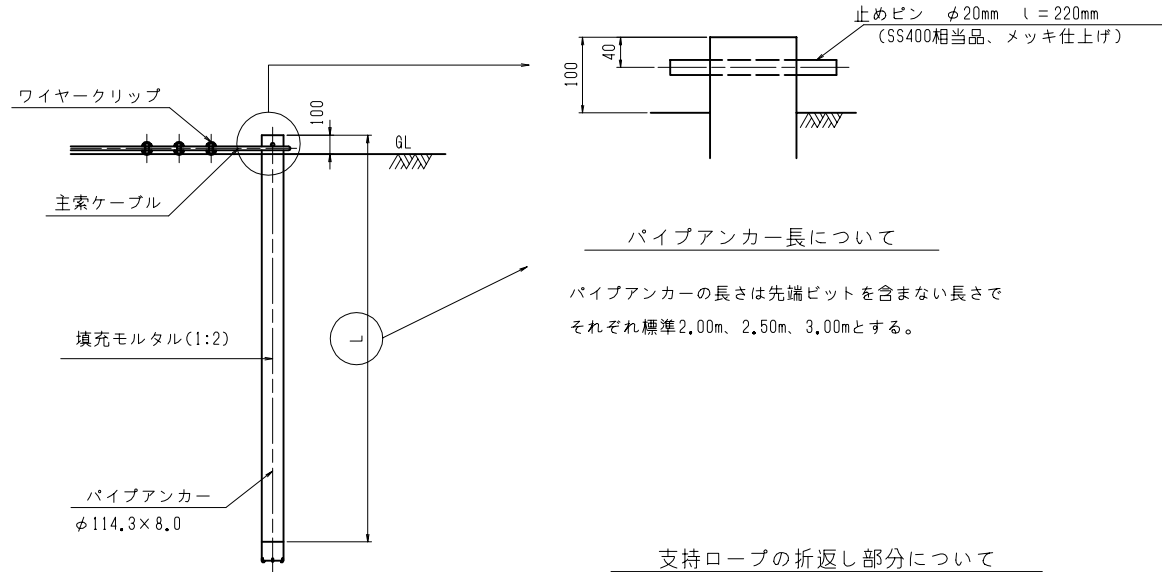
(2)取付個数

ロープ径	適合クリップサイズ	取付個数
12φ	12φ	4
16φ	16φ	4
18φ	18φ	5

(3)折返し長

ロープの折返し長はすべて1.0mとする。

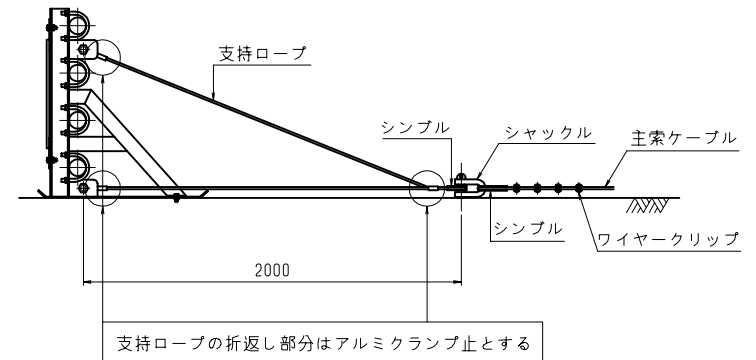
ワイヤークリップの取付間隔、使用個数及び折返し長について、パイプアンカー、樹脂アンカーとも共通とする。



パイプアンカー長について

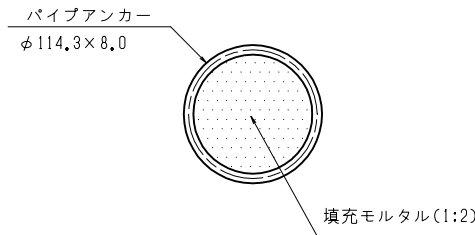
パイプアンカーの長さは先端ビットを含まない長さでそれぞれ標準2.00m、2.50m、3.00mとする。

支持ロープの折返し部分について



填充モルタルについて

- 1.パイプアンカー内部は頭部まで填充
- 2.パイプアンカーと地山の間に隙間がある場合はセメントミルクで填充



部品の表面処理は、JIS H 8641(溶融亜鉛メッキ)による。